い（思い）

先生

ことをもと
大切さを実
かと不平不
、今ある生
のできた時
、自分の意
手をするこ
大きさを大
の努力をす
。
生)

世界で何が起こっているのか知ることが、一番最初にできることだと思いました。どこでなぜ、戦争が起こっているのか、貧困をなくすためにはどんなことが必要なのか、調べてみようと思います。
(南星中学校)

「艦砲ぬ喰ぇ残さー」は
明るいメロディーラインとは
裏腹に歌詞には戦争の残した
傷が感じられた。
あえて暗い音楽に
しないことで人々の気持ちも
鼓舞するし、より長く沖縄で
起こった悲劇が継承されるの
ではないのかと思った。
(東京大学生)

体験した人が
なっている中、
が平和の意志を
け継ぎ、
戦争はいけない
とを次の世代に
ていきたい。
球大学生)

子どもたちの持つ戦争観がより自分に
関わるものとして変化したと思う。
(老蘇小学校 先生)

戦争で日本兵やアメリカ軍が今は仲がいいけど昔は相手を殺したりしているのがどんな気持ちで殺しているのか本当はやりたくないけれどやっている人の気持ちを考えたら今の日本はどんなに平和なのか考えたら悲しくなってくる。
(海星小学校 6年生)

生きていることは、
誰かのおかげなので
私も誰かの役に
立つことを
していきたいです。
豊見城中学校 3年生)

しょうもない
ことだと思う
校)

怖いとの思いで今まで沖縄戦の悲惨さに目を背けていたところもありましたがもっと沖縄戦を知って子供たちの未来を守れるように伝えて行きたい。(泊高校 2年生)

**どんだけ勉強してもそれを
体験した人たちの怖さや
悲惨さは完璧には理解する
ことはできないと思うけど、
もっと知って後世に伝えていきたいと
感じた。
(桑江中学校 3年生)**

写真で振り返る

各列左写真からの説明

1列：・伊良波中学校 出前授業
　　・高校生国際平和ワークショップ
　　・南風原中学校出前授業
2列：・読谷村フィールドワーク
3列：・平和朗読講習会
4列：・豊見城中学校出前授業
　　・平和啓発シンポジウム

平和教育の時間に主に使用した教材

沖縄にとっての「平和教育」教材というと、「沖縄戦」を起点とした内容が多く、教える時期も、6月23日前後に集中的に行われることが多いことは、学校現場の教員の皆さまからの課題として挙げられていました。また、主体的に考え、行動するための学び、SDGｓ、持続可能な未来への学びを模索したいと願う声も併せて、今回は以下の３つの教材を基本として、地域の新聞記事や読谷村の発行した書籍を活用しました。併せて、読谷村出身の歌手、玉城千春が中学生と共に平和教育を通じて制作した歌「Hope dream future』、でいご娘の『艦砲ぬ喰ぇ残さー』と沖縄テレビの慰霊の日を紹介するニュース映像もワークショップの教材として活用いたしました。

「おきなわの心」を伝える教材

開発教育教材 「沖縄から考える平和」
（身近なことから世界と私を考える授業Ⅱ/ 明石書店）

本教材を作成する際、当事者でない私たちが沖縄戦を教材化することについて何度も話し合い、沖縄に足を運び、資料収集に努め、実際に授業をして検討を重ねてきた。これからも当事者や実践者の声に耳を傾けていきたいと願っています。

沖縄移民・世界のウチナーンチュ教材
「レッツスタディ!世界のウチナーンチュ」
（沖縄県発行）

教材のなかの、ハワイ移民と豚の物語を活用した。戦前・戦後と沖縄からの移民者がなぜ海外に移民しなければならなかったのか、沖縄戦前後の沖縄や戦後復興の歴史を学ぶ教材として活用しました。

読谷村史編集室編「読谷村の戦跡めぐり」（読谷村発行）

読谷村における米軍上陸の史実、チビチリガマ、シムクガマの解説としての活用を行いました。また、読谷村内、戦績地フィールドワーク（40ページ以降ご参照）におきまして、読谷村役場職員（中田耕平さん）の解説と共に、本書籍を中心にめぐりました。

沖縄テレビ 「戦後78年 慰霊の日 鎮魂の祈り 平和への決意（沖縄テレビ）2023/6/23」

県外で出前授業を実施する際に、沖縄の人々が慰霊の日をどのような思いをもって過ごしているのかを伝えるために活用しました。

Hope Dream Future

作詞；玉城千春、沖縄アミークスインターナショナル中学校5期生
作曲；玉城千春

未来を選ぶ権利がある だけど
まだ 子どもで無力だ それでも あきらめたくないんだ

ある人はいう 死を選んでも そのギリギリまで
彼らなりの希望があった 強い意志だと

追い詰められたとしても 何か 変わることを祈って 消えてった命

平和願って 生きていたくて

この地球は 優しくて強くて 大きな愛で 語りかけるんだ
未来を築かなきゃ 手を取り合って

言葉なんて伝わらなくとも 心でつながれると 信じているんだ

希望と夢いだいて みんなの笑顔で

僕らは あきらめない 自分をあきらめない 同じ空の下 見上げれば
つながれるよ LOVE LOVE LOVE
・・・・続く

艦砲ぬ喰ぇ残さー(でいご娘)

読谷村楚辺出身の比嘉恒敏さんが作詞・作曲した曲から、沖縄の人々が経験した戦中～戦後の苦悩を学ぶ教材として活用しました。

「Hope dream future」プロモーション映像
この映像も授業の中で活用させて頂きました。
ぜひ、ご覧ください。

平和朗読講習会

届けた、うむい（思い）

沖縄戦を未来の世代に伝えるための新しい平和学習方法として、「朗読」の技を学ぶための講習会が開催されました。この講習会では、仲村美涼アナウンサーと田久保諭アナウンサーが講師としてお招きし、発声の方法からRBCの平和の思いを伝える機会となりました。参加者は小学生から80代まで、幅広い年齢層が参加しました。

イベント概要

日時：9月24日（日）
時間　10：00～18：00
場所：沖縄県平和祈念資料館
形式：対話型のワークショップ
参加者：55人
学校教員、朗読会会員、小学生、中学生、高校生、大学生、県職員

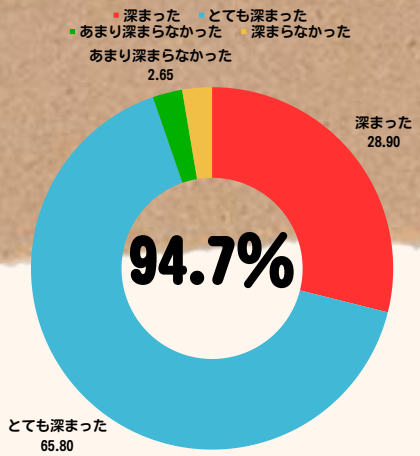
実施結果

イベント参加者

55人

琉球放送の仲村・田久保アナウンサーを講師に平和教育の手法としての朗読を学ぶ時間。

アンケート結果
本事業を通して平和への理解が



イベント内容

○ あいさつ・メッセージ
　新垣 耕 班長 （沖縄県 女性力・平和推進課）
　前川 早由利 館長（沖縄県立平和祈念資料館）

○朗読の基礎講座
　仲村美涼 アナウンサー (琉球放送)

○RBC朗読会の紹介
　仲村 美涼 アナウンサー
　田久保 諭 アナウンサー　(琉球放送)

○朗読プランづくり（グループワーク）

○朗読プラン発表

講師の仲村美涼アナウンサーと田久保諭アナウンサー

左上：グループワーク
右上：朗読プラン作成
左下：RBC朗読会についての説明
右下：会場全体の様子

講師の声

仲村美涼アナウンサー
私たちも正解はわからないまま、なんとか記憶を継承していかなくてはという思いから始めた平和朗読会の活動ですが、今回平和活動に尽力している方々にお聞きいただけただけでなく、積極的に講習会のプログラムにご参加いただけたことを心から嬉しく思っております。朗読は物語をしっかり読み込んで理解し、相手にどう伝わるかを模索しながら自分の声に思いを乗せる表現技法です。これは、我々が戦争体験者から記憶というバトンを受け取り、学び、次世代へつないでいくというプロセスととても似ています。語り部が少なくなっているからこそ、朗読の可能性を信じたい。今後も平和朗読活動を続けていきたいと改めて決意した回でした。

田久保論アナウンサー
今回の講習では午前に発声・発音の基礎的な部分の説明や練習などを行い、午後には弊社が取り組む平和朗読会のつくり方など1つ1つを丁寧に説明し進めることができたと思う。一方で、今回の来場者がそれぞれ何に重きを置き学びに来ているのか違いもあったかと思う。その部分をより事前に把握し、講師も2人いたため、より学びたい分野でグループ分けをするなどすると、より来場者の満足度が高いものになったのではないかと思う。次に機会があればそういった点に意識し取り組みたい。
また、今回は講師として関わり、自社の平和朗読会までの取り組みをアウトプットしたのだが、これまで中々、外に披露する機会のない作業だったため、披露することで我々も改めて作業を俯瞰してみることが出来たことに加え、新たな気づきなども得られたことも次に繋がる重要な部分だと感じる。
今回、平和朗読という1つのテーマのもとに、老若男女、様々なバックボーンを持つ方々が集まった。これを続けていくことで学校現場のみならず、様々なシーンで朗読による平和学習を広げていけるのではないかと可能性を感じている。

参加者の声

・朗読は単なる「技術」ではなく、相手に伝える「表現手法」だという事で、沖縄戦体験を深く理解する／改めて捉えることができた。
・学生の参加が多く、関心の高さに驚きました。積極的な発表も素晴らしかった。朗読はそれ自体はもちろん意義はあるが、そこに至るまでの取材、聞き取りなどを通して沖縄戦の追体験をしたり、伝えたいと思って活動している人の心の内を知ることになる。そこにこそ、平和学習になりうる素材があると思いました。
・朗読会が始まる前に、資料館を見て回りました。恥ずかしい話、僕は中学の頃に一度来ただけで、しっかりと見て回ったことがありません。実際回ると、これらのことが数十年前にこの地で本当に起きたことなんだ！と、痛感しました。戦争のことは、史実や教科書の出来事でしたが、今回でとても身近に感じました。

JICA国際協力フェスティバル
平和朗読発表・パネル展示

届けた、うむい（思い）

9月に行われた平和朗読講習会に参加してくださった方の中から、3名の方に朗読をしていただいた。
中学1年生の女の子、長年朗読にたずさわっていらっしゃる方や平和ガイドとして活動されている方、それぞれ違った平和朗読を通して、平和教育としての朗読の可能性を示すことができた。

イベント概要

日時：11月25日（土）
時間　10：00～12：00
場所： JICA沖縄センター
形式：朗読発表（舞台・展示内発表）
参加者：500人

イベント内容

〇平和のメッセージ
〇パネル展示
〇JICA沖縄体育館での朗読
〇パネル展示ブースでの朗読

実施結果

イベント参加者

約500人

JICA沖縄
国際協力フェスティバル内にて実施
沖縄県系人とのパートナーシップ

朗読発表者と島津課長

お琴の演奏に合わせた平和朗読

まなびフェスタ読谷
ワークショップ＆パネル展示

届けた、うむい（思い）

ガマのワークショップの舞台となった読谷村で実施されたまなびフェスタ読谷開催に合わせてワークショップとパネル展示をおこないました。
平和へのメッセージを書くコーナーには多くの親子連れが訪れ、和やかな雰囲気で実施することができました。

イベント概要

日時：２月4日（日）
時間　10：00〜12：00
場所：　読谷村文化センター
形式：パネル展示
　　対話形式のワークショップ
参加者：ワークショップ11人
　　パネル観覧約200人

イベント内容

〇平和のメッセージ（参加形式）
　平和の風船配布
〇パネル展示
〇読谷村ガマのワークショップ

実施結果

イベント参加者

約200人

展示を訪れた親子

メッセージを書く子どもたち

高校生国際平和ワークショップ

届けた、うむい（思い）

沖縄戦から何を学ぶび、次世代へどのような形で継承していくべきか。そして沖縄戦の記憶が世界へどのように伝わり、活用されているのかということをテーマに高校生向けのワークショップをJICA沖縄センターとの共催で実施しました。

JICA平和構築室の島田具子副室長からはJICAが行っている平和構築への取り組みについての講演をしていただき、ひめゆり平和祈念資料館の古賀徳子 学芸課長からは沖縄戦やひめゆり学徒隊を同世代に伝えることをテーマにした対話型のワークショップを行っていただきました。

イベント概要

日時：10月14日（土）
時間　10：00～15：30
場所： JICA沖縄センター
形式：講演と対話型のワークショップ
参加者：24人
参加者の学んでいる高校・大学名：宜野湾高校、向陽高校、小禄高校、北中城高校、北部農林高校、那覇国際高校、普天間高校、琉球大学、沖縄国際大学、名桜大学、教員、社会人

イベント内容

〇 あいさつ・メッセージ
島津典子課長 (沖縄県 女性力・平和推進課)
倉科 和子 所長 (JICA沖縄センター)

〇 講演「国際協力による平和構築」
島田 具子副室長
(JICAガバナンス・平和構築部 平和構築室)

〇高校生が同世代に伝えるためのワークショップ
古賀 徳子 学芸課長
(ひめゆり平和祈念資料館)

実施結果

イベント参加者

42人

・JICA沖縄センターとの共催

アンケート結果
本事業を通して平和への理解が
高まった（とても高まった・高まった）

100%

ワークショップ参加者の集合写真

左上：島田 具子 副室長
右上：古賀 徳子 学芸課長
左下：イラストを用いたガイドの様子
右下：引率の先生や保護者の方も参加してくださいました。

島田 具子 副室長の声

・皆さんからいただいた質問やメッセージの中で、紛争を経験した国が復興し、別の紛争国にその経験を伝えられると気づいてくれた人が多く、「平和のサイクル」という表現もあり素敵だなと思いました。世界で起こっている紛争、その後の平和構築支援、そして沖縄県の経験がどう繋がるかを「自分ごと」として捉えてくれたのだと思います。改めて貴重な機会をありがとうございました。

古賀 徳子 学芸課長の声

・沖縄平和賞受賞団体の活動を沖縄の若い世代に伝えるという趣旨で、ひめゆり平和祈念資料館のワークショップを行う機会をいただきました。 ワークショップでは、生き生きした表情で話し合う高校生の姿が印象的でした。今までは戦争については「辛いとか怖いとか一言で終わるような感想しか思わなかったけど、グループの話し合いで自分にはなかった視点や意見が聞けて、これから自分が何をしたらいいのか考えた」という生徒、「同世代の普段会うこともないみんなと出会えてすごく不思議で忘れられない時間」になったという生徒の感想を読んで、上の世代が下の世代に教えるだけでなく、同世代と対等な立場で学び、話し合うことが若者に大きな影響を与えるのだと感じました。

参加した高校生、大学生の声

・学校でも平和について学ぶ機会はありましたが、沖縄戦で起きたことを中心に学んでいたため、今回のワークショップを通してはじめて沖縄戦の経験が世界の平和につながると知り驚きました。そして、あらためて平和な世界を築いていくためには私たち若い世代の人が自分の住む地域の歴史や世界に目を向けて知識を持ち、伝える側になっていかなければいけないなと感じました。今後社会に出た時、自分の研究していることや職が平和につながらないか考え、自分にできる形で平和に貢献していきたいと思います。

・ニュースや歴史の教科書で自分なりに理解していた平和が、本当は裏の人たちの努力や現地の人々の汗によって成り立っていることが分かって驚いた。JICAの人たちの存在は知っていたけれど、こんなにも沢山の協力をしていることは知らなかった。

・平和教育の在り方を考えていかなければいけない中で、さまざまな形での「平和教育」を知ることができました。今の高校生が、沖縄戦についてどう考えているのか、どう向き合っていけばよいかをしっかり考えているのを見て、沖縄の高校生たちは素晴らしい！！優秀！！と思いました。

次世代継承ワークショップ
～語り部へのインタビュー編～
語り部：瀬名波榮喜 先生

瀬名波榮喜先生

届けた、うむい（思い）

沖縄戦をテーマにした授業で証言を扱う中で、証言をわかりやすくまとめた新聞紙面の果たす役割を感じた。また、沖縄戦の生存者の話を聞くことができる沖縄県であるからこそ、証言を集め、社会に広げていくことの意義は大きい。ここ数年継続的に行っている若い世代による平和教育の継承を鑑み、若い世代が生存者にインタビューし、資料をまとめていくプロセスの意味を大事にしたい。その技術をプロから学びたいとの声もあり、當銘悠記者をはじめとする沖縄タイムス社のご協力の下、今回の企画を立ち上げた。

●事前学習●
日時：1月21日（日）
時間：10:00～12：00
場所： Zoom
形式：當銘記者の講義と
参加者同士の対話

●インタビュー●
日時：2月5日（火）
時間：18:00～20：00
場所： 沖縄県総合福祉センター
形式：インタビュー形式

●事後学習●
日時：2月18日（日）
時間：10:00～18：00
場所： 沖縄タイムスビル
形式：記者による添削

参加者：17人
首里高校、那覇国際高校、沖縄国際大学、名桜大学、ハワイ大学、高校教員、大学教員

実施結果

イベント参加者

17人

オンラインによる事前学習と
語り部へのインタビュー
現役記者による記事添削

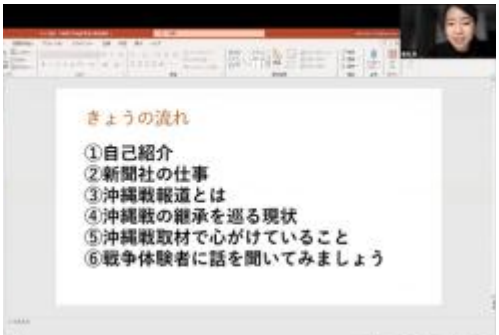
インタビューの様子

瀬名波榮喜先生（経歴）

1928年11月、久志村（現名護市）三原で生まれ。1944年、15歳の頃に嘉手納の県立農林学校に入学し、陣地構築にかりだされた。1945年3月、激しい空襲のため嘉手納に戻れず、家族とともに北部の山に避難。農林鉄血勤皇隊として動員された学友たちは命を落とした。戦後は英文学研究の道に進み、名桜大学名誉学長などを歴任した。現在、第32軍司令部壕の保存・公開を求める会の会長を務めている。

〇2024年1月21日 事前学習会

内容：新聞記者の仕事について
　　一年を通した沖縄戦記事の流れ
　　記事作成・取材のコツ
場所：Zoom
講師：當銘悠記者 (沖縄タイムス社)



1/21 事前学習の様子

〇2024年2月18日　事後学習会

内容：記事の校正
場所：タイムスビル 会議室
講師：・沖縄タイムス社 記者
　　當銘悠 (社会部)
　　吉田申 (社会部)
　　又吉嘉例 (学芸部)
　　新垣綾子(デジタル編集部)
　・株式会社うなぁ沖縄
　　長嶺晃太朗

参加者の集合写真

添削を受ける様子

添削を受ける様子

添削を受ける様子

添削を受ける様子

瀬名波先生と高校生・大学生のインタビュー

本ページは、生徒さんが瀬名波先生にインタビューした際の様子を抜粋しております。

瀬名波先生）
みなさんにお会いできてこんなにうれしいことはない。沖縄戦が始まったとき、ちょうどみなさんと同じような歳でした。今でいえば中学の３年生でした。当時は学校制度がだいぶ変わっていまして、小学校６年までが「尋常科」、それから２カ年間「高等科」というのがありまして、小学校６年を終えると、入学できたのが普通の中学ですね。あとは師範学校、農林学校、水産学校といった実業学校はですね、小学校６年を終えてさらに２カ年間、勉強しないと受験資格がなかった。ちょうどみなさんと同じころに私は嘉手納の県立農林学校に入学することができたわけです。

生徒A）
普通の学校生活から戦争に備えること中心の生活に変わった時、どんな気持ちで訓練などに望んでいたのですか？

瀬名波）私が県立農林学校に入学したときは、みなさんと同じような希望をもって入学したのです。小学校で学ぶことのできない英語とか、物理科学とか、聞いたことのないような科目がずらりと並んでいるわけですよね。そういうことで「よし！一生懸命勉強しよう」と燃えておったわけです。ところが４月に入学して、7月ごろになると、中国大陸から第３２軍がなだれるように押しかけた訳です。瞬く間に我々が住んでいた学寮が軍に取られる。校舎も接取される。それから我々はすむところもない、勉強するところもない。下宿生活をはじめる、そして小屋をつくったんですよ。ところが小屋を作っても勉強したことは全くなかったです。なぜかというとちょうどサイパンが陥ち、硫黄島が陥ち、そして沖縄に目が向けられる。それで、それに備えて授業どころではなかった。それから、７月ごろになりますと、陣地構築となりますと、嘉手納飛行場をつくったのはわれわれなんですよ。全学生が毎日動員されて、

そして滑走路を整備するために、いまみたいにコンクリートが使えるまでもないんですよ。石ころをもってきて、それをついて、大きなローラーを通して固くして、そして飛行機が飛べるようにすると、そういうことが１つ。それから読谷の方に座喜味城がある。その城は、何百本もの松の木を１本１本切り倒して、そしてさらに石垣を城壁を破壊しまして、そこに原始的な方法で飛行機を脅す高射砲をですね、平坦な土地から城の方までもっていて、６門据えました。こういう風に戦の準備をしてきたんですよ。

嘉手納の沿岸、読谷の沿岸、そこに動員されました。平坦な地に５メートルぐらい穴を掘って、アメリカの兵隊、戦車がやってきたときにそこに落として、そして、後ろのほうに一人はいれる、
そして滑走路を整備するために、いまみたいにコンクリートが使えるまでもないんですよ。石ころをもってきて、それをついて、大きなローラーを通して固くして、そして飛行機が飛べるようにすると、そういうことが１つ。それから読谷の方に座喜味城がある。その城は、何百本もの松の木を１本１本切り倒して、そしてさらに石垣を城壁を破壊しまして、そこに原始的な方法で飛行機を脅す高射砲をですね、平坦な土地から城の方までもっていて、６門据えましたよ。こういう風に戦の準備をしてきたんですよ。
嘉手納の沿岸、読谷の沿岸、そこに動員されました。平坦な地に５メートルぐらい穴を掘って、アメリカの兵隊、戦車がやってきたときにそこに落として、そして、後ろのほうに一人はいれる、
壕をつくってあった。そこから手りゅう弾を投げて、敵を戦車をひっくり返す戦法だったんですよね。そういうことで、戦争がはじまる準備として、ほかの小学校中学校、みんな同じ状態ですね。勉強どころではなくなった。そういうところでした。

生徒B)
学生も軍に入ったと思うんですけど、その時に軍の入隊に拒否権とかなかったんですか？

瀬名波)
それはもう全くくれませんでしたね。軍人でなければ男じゃないって。そういう時代。
軍国主義教育が徹底しています。小学校からそういう教育を受けてきていますのでね、小学校2年のテキストには、「木口小平は死んでもラッパをはなしませんでした」と国語の本にあるんですよ。

こういうことで教育がそういう方向に行っていたんです。今でこ命どぅ宝といえますが、命と言うものは鳥の羽のように軽いものだと言うような教育ですよ。天皇陛下のためには命を惜しまない。国のためには命を惜しまない。そういう教育を受けてきているものだから、別にどうのこうのということは考えなかった。我らが人生18年、18年生きればいいと。そういう感じでしたね。これは皆さんから考えると馬鹿げてるんじゃないかと思うでしょう。なぜか、思考することが許されなかった。考えることは上から言われた通りですから上の言う通りそのまま守っておれば良いと。皆さんはやはりThinkingと言うのは人間の特権ですからそこをうまく利用すべきなんです。
「勝つまでは、打ちてしやまん」と言う標語があった。最後まで戦うんだとそういうような雰囲気でしたからね。

生徒C)
終戦から12年という短い期間でかつての敵国であったアメリカに渡ってそこでその現地のアメリカの学生たちと時に衝突することもあったかと僕は想像するんですが、アメリカに渡ってそこで得た経験、今の瀬名波先生の人生にそういった当時のアメリカの学生たちとの交流というのはどのようにして今自分の人生に生きているのかというのをお聞きしたいです。

瀬名波)
今まで戦っていたのに、なぜ敵国に行って勉強せざるを得なかったか、やはり私は専攻が英文学でして英文学の小説を読みますと、人間というのはアメリカとかイギリスとかそういうものではないと、人間なんだと。その小説の中に出てくる人物の心の中に入り込んでいって、そして一体化できる、まったく同情できる、心を一つにするこができると、そういう経験をでかける前にやっているわけですね。心の中では十分解ける事ができると思ったんです。
人間というのは国とか、時代とか、そういったもの隔てなく全く同じなんだということ。しかしながら、ご質問にあるように、やはり実際にアメリカに行ってみると、それは普通ではなかったですよね。 ぶつかるということはやはり度々ありましたけれども、それは文化的な違いとかそういう意味なんですけれども、時に嫌味を言われる。どういうことかと言うと、俺の父はね、お父さんはお前たちに殺されたと、そう言われるとね、もう本当に返す言葉もなかったんですよ。俺の父はお前たちに殺されたと。それに対して、私は同じなんだよと、僕だって父を亡くしたんだと、同じじゃないかと、戦争というのは国と国との戦いで、 「個人と個人の戦いではないだろと、いうことで仲直りしたことがありました。

生徒D)
瀬名波先生自身が考える世界の平和像っていうのをお聞きしたいです。

瀬名波)
人類というのは1つだということですよね。人間は考える葦だと言われておりますが、動物と違うところは考えること、シンキングということなんだけど、盲目的に従うこと、それは避けた方がいいと思いますね、自分で考えること。先ほどのお話しのように、実際は負けているのに日本は勝つと思いこんでいったわけですね。そういう客観的な目を養う必要があるだろうということ。

首里城の32軍を見れば、これが消える事のない、消す事の出来ない、永遠の語り部ですよ。だから平和の語り部として、永遠の語り部として残しておきたいと。32軍壕はね。そういう意味で大きな価値がある。ああいう風にやれば世界は平和になるんじゃないのかなぁということですね。
永遠の肯定」永遠に肯定できるものそれは何か？平和ですよ。人類がね、誰でもこれを永遠に否定するわけにはいかん。永遠の肯定、The Everlasting Yeaとカーライルという人が言ってますけども、私は永遠の肯定という場合には、それは平和だと思うんです。誰でも平和といえば賛成してくれる。
永遠の否定 The Everlasting No、これは何であるか。これは戦争ですよ。だから永遠の否定、永遠の肯定という言葉、それが大事じゃないのかという風に思いますね。ですから、ぜひそれを守ってもらいたいし、そして最後に戦争は何たるものか、戦争は文明文化の破壊者である。人間性の破壊者であると。人間性の破壊者である。平和は文明文化を創造するものである。そして平和の構築者である、という風に私は信じております。最後の言葉として皆さんにお伝えします。

（おわり）

RBCIラジオ　特別プログラム企画

まるごと１日平和の日スペシャル ～伝えよう沖縄のこころ～

リクエスト曲も平和ソング

各番組で放送された平和ソングをご紹介。
あなたが好きな曲はありましたか。

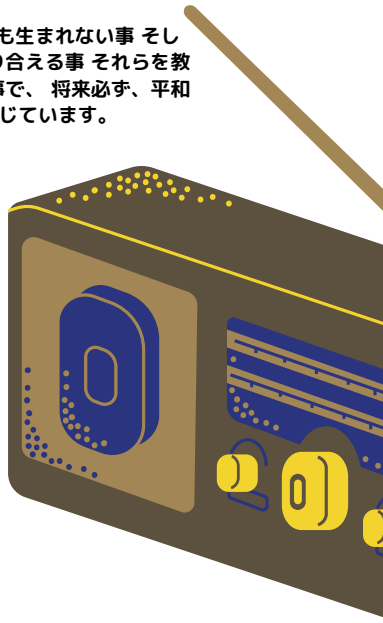
♪マン・イン・ザ・ミラー／マイケル・ジャクソン
♪Here,There And Everywhere / The Beatles
♪We Are The World／USA for AFRICA
♪愛にできることはまだあるかい／RADWINPS
♪Lean On Me／AI
♪弥勒世果報－undercooled／うないぐみ＋坂本龍一
♪ひまわりの街／森恵
♪風に吹かれて／ピーター・ポール＆マリー
♪Consolidation Song / Def Tech
♪うむい／Rude－α
♪琉球愛歌 Remix／Awich
♪兵隊さんが泣いた／Epo
♪月桃／真栄里英樹BIGBAND
♪グッドナイト・サイゴン～英雄達の鎮魂歌／
♪ビリー・ジョエル
♪祈り／普天間かおり
♪イマジン／ジョン・レノン
♪Hey和／ゆず
♪希望のうた／MISIA
♪Love／AAA
♪時をこえ／HY
♪平和の琉歌／ネーネーズ
♪Triangle／SMAP
♪ジュゴンの見える丘／Cocco
♪himeyuri ～ひめゆりの詩～／モンゴル800
♪青空／THE BLUE HEARTS
♪1999年、夏、沖縄／ Mr.Children
♪Hope Dream Future／玉城千春

リスナーさんから届いた平和を想うメッセージ

誰も笑顔になれない世界は悲しすぎます。

争う事の愚かさ、憎しみからは何も生まれない事 そして、きちんと話し合えば必ず分かり合える事 それらを教え・学び・受け継ぎ・広めて行く事で、 将来必ず、平和な未来が訪れると私は、信じています。

平和であるためには、戦争がなく、家族や友達と一緒に入られること。もう戦争は二度としてはダメですし、当たり前に笑顔で話が出来ること、皆が、幸せに暮らせる毎日が平和と思います!。



**まさに今、このラジオが聞けているということ。
"平和"だからこそだと思うんですよね。
テレビで戦争の映像を観る度に、涙が出てしまいます。
世界が本当に"平和"であるように願いたいです。**

平和の種は"対話"だと思います。

無駄な殺生をして傲慢だと誰にもぶつける事ができない怒りが込み上げてきます。 そして人類は戦争の歴史を繰り返して悲しくなります。 空腹がなく、安心できる場所がある シンプルですがこれこそ平和。 地球人として誇れるように 相手を否定せず肯定しましょう

私の住む秋田市は、日本で一番最後、8月15日未明に空襲を受けた街で、あと何時間か早く戦争が終わっていたら、尊い命が失われずに済んだのです。秋田市の小学生は、ここから平和教育を学んでいます。

平和を考える事自体が平和で幸せな事です。

Q:「○○は平和」平和についての想うこと

仲村美涼 / ナガハマ ヒロキ

「想像することは平和」

くだかまり / 沖野 綾亜

**「愛」
「美味しくお腹いっぱい
食べられること！！」**

具志堅将司 / 棚原里帆

**「苦しいを笑う」
「よく食べてよく寝ること」**

7:00-9:53	10:00-13:50	14:00-15:40	16:00-17:00	17:00-20:00
『アップ！！』	『MUSIC SHOWER PLUS』	『具志堅ストアー』	『民謡で今日拝なびら』	『わんDAY』
仲村美涼 ナガハマヒロキ	くだかまり 沖野　綾亜	具志堅将司 棚原里帆	前川守賢 よなは徹	ベンビー 中村一枝

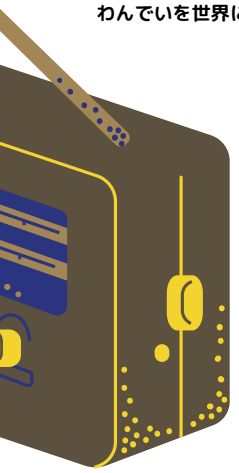
リスナープレゼントは「平輪ちんすこう」

メッセージを採用された人へ送るリスナープレゼントに抽選で
社会福祉法人　若竹福祉会の平輪ちんすこうをプレゼント。
「世界が平和でありますように」の想いが込められています。

**人が人でなくなる戦争
もう二度とNOです
私の兄も戦争の犠牲になりました。どこかの
地で待っているかと思うと胸がはちきれそうです**

世界が笑顔あふれる人々で地球上の皆が平等に平和に過ごせる日が来ること心から祈ってます

**ご飯が食べられること、買い物が出来ること、お話が出来ること、rラジオ（わんでい）を聴けること。
わんでいを世界に聴かさてあげたいですし、毎日皆が笑顔であるように祈りながら願っています。**



**難しいことは分かりませんが、相手の事を思いやる、相手の気持になって物事を考える事が平和を築くためのまずは第一歩ではないかと思います。
僕達が普段何気なく行っている、美味しいものを食べる、笑う、友人に会う、好きなことに没頭する、などの事が決して当たり前のことではなく、小さな奇跡の積み重ねの上に成り立っているいるという事を、今日の平和の日スペシャルを聴いて改めて感じた一日でした。**

コーナーやラジオカーリポートの出演は平和継承に携わる企業・団体のみなさま

ゲストコーナーやラジオカーリポートのコーナー内では
沖縄県やちゅらうちなー草の根平和貢献賞や沖縄平和賞の受賞団体・企業をはじめ
平和継承活動に日々尽力するみなさまにご出演いただきました。

出演者のみなさま(順不同)

- **特定非営利活動法人ジャパンハート**
  佐藤 抄（事務局長/海外事業本部長）
- **宇検村**
  元山公知（村長）
- **沖縄県平和祈念資料館**
  前川早由利（館長）
- **JICA沖縄センター**
  平山久美子(市民参加協力課)/比嘉航也(研修業務課)
- **オヤジバンド GENNO6**
  友利尚生
- **ひめゆり平和祈念資料館**
  普天間朝佳（館長）
- **南風原平和ガイドの会**
  井出佳代子(会長)
- **NPO法人メッシュサポート**
  塚本裕樹（理事長）
- **でいご娘**
  比嘉けい子
- **佐喜眞美術館**
  佐喜眞道夫（館長）
- **向陽高校**
  仲尾彩音/久貝恵玲奈（高校2年生）
- **沖縄県子ども生活福祉部女性力平和推進課**
  島津典子（課長）／前原芳（主幹）
  比嘉奎介（主事）／照屋瑛一（主事）

ありがとうございました。

**メール・ハガキ・TWITTERを合わせて
962通のコメントが届きました。**

パーソナリティのみなさんにも聞きました

よなは徹 / 比嘉 けい子 / 前川守賢

**「人種・宗教を超えて
すべての“音”を“楽”しむ」
「皆んなで楽しく歌ってる時が平和！」
「時代は変わっても平和を願うことは
我れ我れの大事な使命
歌にのせます」**

中村一枝　/ ベンビー

**「親しい人たちと料理を囲んで
おいしいね♪って言えることが
平和だなぁって感じます」
「好きなお酒を飲めること
一緒に笑う仲間がいること」**

「沖縄のこころ　平和啓発シンポジウム」

届けた、うむい（思い）

沖縄から発信する平和のメッセージを広く県外の方々に届けることを目的とする。音楽や踊りといった沖縄の芸能を中心とした1部、国際的な活動をする県出身者たちが語り合う2部を通して、沖縄に関心のある様々な世代の方々と平和を願う「沖縄のこころ」を共有した。

イベント概要

日時：1月28日（日）
時間：【1部】11:00～12:30
　　【2部】13:00～14:30
場所：ラ チッタデッラ
形式：
　【1部】音楽ライブ
　【2部】
パネルディスカッション

イベント内容

【1部】歌らな平和　音楽ライブ
- 桜美林大学 桜風エイサー
- 古里友香
- アルベルト城間

【2部】語らな平和　パネルディスカッション
- ビデオメッセージ　玉城 デニー(沖縄県知事)
- 普天間 朝佳　(ひめゆり平和祈念資料館館長)
- 嘉数 真理子　(ジャパンハート　医師)
- アルベルト城間 (ディアマンテス)

実施結果

イベント参加者
1部・2部　合計

444名

アンケート結果
本事業を通して平和への理解が
高まった（とても高まった・高まった）

91.4%

上：桜風エイサー琉球風車の演舞
下：パネル展

第一部 歌らな平和

桜美林大学 沖縄エイサー部 桜風（おうかじ）エイサー琉球風車（かじまやー）

1. 琉風小
2. 仲順流り
3. 久高万寿主
4. 花ぬ風車
5. 安里屋ユンタ
6. サフエン節
7. テンヨー節
8. いちゅび小節
9. かたみ節
10. 渡りぞう・瀧落菅
11. 守礼の島
12. 唐船ドーイ

民謡歌手 古里友香

1.安里屋ゆんた
2.豊節～繁盛節
3.島の花
4.島唄

ディアマンテス アルベルト城間

1.コンドルは飛んで行く
2.ガンバッテヤンド
3.片手に三線を　　等

シンポジウム・パネルディスカッション要約

アルベルトしろま
アルベルト 城間

かかずまりこ
嘉数 真理子

ふてんまちょうけい
普天間 朝佳

のそこみちよ
野底 美智代

パネルディスカッション（要約）
「平和を希求するおきなわの心　～次世代への平和継承をどう展開するか～」

紙面の関係上、登壇者３名のお話された内容の要約とさせて頂きます。

◆ひめゆり平和祈念資料館　館長　普天間朝佳

1989年にひめゆり平和記念資料館が開館した。元学徒が証言員となって戦争体験を伝える活動を始めたが、現在は活動からは退き、亡くなった方もいる。今、資料館の運営や戦争体験を伝える活動は、彼女たちからバトンを受け取った戦後世代の職員が担っている。

資料館は2021年に大幅なリニューアルをした。イラストや映像などで分かりやすくし、学徒たちの活き活きとした学校生活を表現することに力を注いだ。若い世代が当時の学徒たちも、今の自分たちと変わらない人たちだったんだと感じてもらい、戦争体験を自分ごととして受け止めてもらうことにつながるのではないか。貸出しパネルを使って、高校生に同じ生徒たちにガイドをしてもらうようになるためのワークショップを始めることで、生徒の皆さんが自分たちが沖縄戦を伝えるんだという意識をもつことができると思う。

海外への発信交流にも力を入れている。昨年9月からハワイで、ひめゆりとハワイというテーマの展示会を開催した。たくさんの方々にご来場いただいて、ハワイ州知事もお見えになった。現在ウクライナやガザで激しい戦闘が続き、大切な命が奪われ続けている。沖縄周辺でもいわゆる台湾有事を巡って、まるで沖縄を戦場にすることを想定しているかのような動きが強まっている。そのような中、沖縄では「沖縄を2度と戦場にしてはならない」という声が広がっている。私たちは抑止力のための軍拡がいかに危険であるか、対話と外交努力がいかに大切であるか、ということを強く訴えていかなくてはならない。

◆ジャパンハート　医師　嘉数真理子　講演

東南アジアでは日本だと治るはずの病気が全く治らないっていう現状がある。すごく悔しく感じ、ジャパンハートの活動に参加した。ジャパンハートは、 ミャンマー、カンボジアなどで活動を広げ、国内では離島、へき地の医療支援活動もしている。能登半島地震では、発生翌日から救援活動に入った。沖縄との繋がりも深く、2014年に沖縄平和賞を受賞した。新型コロナ感染拡大時には、沖縄に100人以上の看護師を派遣し、感染対策や患者さんのケアをした。それもあって、2022年には、県と大規模の災害時等における支援活動に関する協定を結んでいる。

赴任先のカンボジアでは、国民皆保険制度もなく、ポル・ポトによる医師を含む知識層への大虐殺があった影響もあり、医療水準が低い。小児がんは日本で発症しても大体8割は助かるが、カンボジアでは2割も助からないといわれている。現状を解決しようと、現地にこども医療センターを開設した。現地スタッフの育成にも力を入れており、現在は、病院スタッフの８割がカンボジア人だ。まだ人手や設備不足などの課題があり、来年には規模の大きい「ジャパンハートアジア小児医療センター」の開院も目指している。

「まことぅそーけーなんくるないさ」は「くじけずに正しい道を歩むべく努力すればいつかきっと良い日が来る」っていう意味だ。辛いニュースや平和を脅かすような出来事が多い中でも、自分が信じる道、正しいと思う道を進んでみる、少しでも勇気を出して行動してみると、自分も変わるし周りも変わる。そして世の中も変わっていくと思う。